

校庭の桜も花を開かせ、春の息吹の訪れを感じる季節となりました。

新入生45名のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんは、今日から井波中学校の生徒です。先輩にあたる二、三年生の在校生そして教職員の方々と、心温かい交流を通しながら、中学生として立派に成長して欲しいと思います。

ここで、これからの三年間、皆さんがよく耳にする言葉を紹介します。それは「中学校は社会に出る準備を進め、大人に近づくための学び舎」という言葉です。大人とは、自分のことは自分でできる人であり、また、自分のために、人のために何をすべきかが分かっている人のことを言います。こうした大人になるため、三年間で挑戦して欲しいことを、三つにまとめて見ました。

まず一つ目は、中学校三年間を「自分発見の三年間にして欲しい」ということです。自分はどのような人間であり、どんな能力があるか、将来どのような方向へ進むと良いか、ふるさとにどう貢献するか、など、自分という人間をしっかりと見つけて欲しいのです。この中心は、なんといっても「学習」だと思えます。あせらず、自分の力に応じた学習の仕方を工夫し、時には仲間のペースに合わせながら学びを進めることです。毎日の授業を大事にしましょう。

二つ目は「周りから信頼される人になって欲しい」のです。学校というところは、様々な人々との関わりで、自分が成長していくところです。私は、社会人として人柄の判断材料となるのは「約束を破らない人」だと思えます。相手や集団のことを考え、目配り・気配り・心配りのできるところに、多くの方は感謝の気持ちを寄せてくれます。相談したいと思われるような、差別や偏見をしない、心の広い人になってください。

三つ目は、困難や辛いことも我慢強く乗り越えていく力、つまり「復元力」を伸ばしてください。令和時代に入り、新型コロナウイルスの出現で、決まっていた活動や行事が、延期となったり規模が縮小したりするなど、生活上の制約を受けやすい日常が続いています。でも、こうした状況を「知恵を伸ばす良い機会だ」とか、「苦しい日々は続かない。素敵な時期が必ずやってくる」など、前向きな気持ちを失わないことが、幸せを引き寄せると思えます。

以上、3つの挑戦目標を話しましたが、こうした目標を達成するための学校生活のよりどころとなるものとして、校訓があります。井波中学校の校訓は3つの言葉、「自主完遂(すい)」「明朗闊達(かったつ)」「質実剛健」です。この校訓のもと、今この時から、「自分探しの旅」に力強く出発しましょう。「志あるところに道あり」です。

最後になりましたが、南砺市教育長 松本謙一様をはじめ、ご来賓の方々に、本校令和4年度入学式にご臨席を賜りましたこと、高い所からではございますが、心より厚く御礼

申し上げます。また保護者の皆様方、お子さまのご入学おめでとうございます。本校は日本有数の道德性が高い学校を目指しており、徳を積むことは、よりよく生きることや学力の向上に繋がるものと、信ずるところです。教職員一同、お子様の無限の可能性を引き出し、伸ばすための実践を誠心誠意努めてまいります。

結びに、ご来賓各位、保護者の皆様には、本校の教育活動に対して、深いご理解と温かいご支援をいただきますよう重ねてお願い申し上げますとともに、新入生の皆さんが、心身共に大きく成長することを期待して、式辞といたします。

令和4年4月7日

南砺市立井波中学校校長 河原 秀樹

